

〈学術研究集会傍聴記〉

第26回日本運動生理学会大会傍聴記

中野 大輝*

Daiki NAKANO*

第26回日本運動生理学会大会が、2018年7月28日から29日まで大阪体育大学で開催された。本学会のテーマは「エビデンスに基づく運動生理学的実践」であった。本学会を主催する日本運動生理学会は、「運動・スポーツの生理学に関する専門的、学際的研究の発展を図るとともに会員相互の連絡と関連諸機関との協力を保ち、広く知識の交流を求めること」を目的としている。ここでは、私が本学会で学んだことを中心に記載する。

1日目は口頭発表およびシンポジウムを聴講した。口頭発表において、ミトコンドリアに着目した研究がいくつかあった。発表後の質疑応答の際やフロアにおいて、発表内容や私がこれまで疑問に思っていたことについて、発表者とディスカッションすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。また、骨格筋におけるミトコンドリア品質管理能力についての研究は、近年国際的に活発に行われており、今回の口頭発表でも発表されたことから、私が着目している分野が日本国内においても注目されていることを再認識した。シンポジウムにおいては、「生活習慣病を克服する運動処方のエビデンス」を聴講した。内容は学会のテーマに沿っており、生活習慣に対する運動処方の有効性を、分子メカニズムに着目して明らかにしようとする研究についてであった。

2日目は「月経周期のフェーズを考慮した持続的トレーニングが骨格筋ミトコンドリア酵素活性性に与える影響」という演題で口頭発表を行った。これま



で、国内外で学会発表をしてきたが、特に国内の学会では質問されることは少なかった。しかしながら本学会において、多くの研究者の方から質問をいただくことができた。先ほど述べたように、該当分野の関心が年々高まっている影響からだと思われる。また、私の研究内容がどのように現場に生かすことができるのかというような、本学会のテーマにもある「実践」に関する質問を受けた。私の研究内容はメカニズムを追求することに主眼が置かれているが、本学会に参加して、エビデンスに基づいて運動生理学的な実践に繋げていくことを求められていると感じた。

このように、私にとって今回の学会は収穫が多く、有意義なものであった。また、これまでなかった着眼点や思考を得ることができた。しかしながら、本学会に参加して危機感を抱いたもの事実であり、質の高い研究成果をいかに早く発表できるかが重要である、ということを感じた。今後の研究活動の糧にしていきたい。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程2年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University